

日韓首脳会談の全貌を暴露する！

<http://yohkan.iza.ne.jp/blog/entry/2482613/>

韓国大統領官邸を表敬訪問した野田首相は仰天した。何と官邸は粗末な青いビニールテントだった。テントの前にしゃがみこんだオッチャンが手招きする。大統領だった。

李 「おお、よう来たな。むさ苦しいとこやけど、入り、入り」

野田 「失礼します」

李 「堅苦しい挨拶は抜きや。一杯飲もか」

野田 「は、いや、まだ、その、昼間ですし」

李 「何云うてんねん。いける口やろ。酒が好きそな顔や」

野田 「じゃ、ま、一杯だけ。それにしても大統領のお住まいは、えーと、その、あの、何と云うか。簡素ですな」

李 「何が簡素や、アホ。いや、落ちぶれたもんや。ついこの間まで大統領官邸ちうたら青瓦台、通称ブルーハウス云うてな、豪勢な建物やった。それが、キミ、今はブルーテントや。ははははは。ま、飲めや」

野田 「おとととと。・・・で、その青瓦台はどこに」

李 「売った。何もかも売り払いよった。そりゃ国家破産やもん。あんまりウオンが安うなつたで、手持ちのドルで通貨防衛云うて介入したんが運のツキ。すってんでんや。政府も民間も持ちモン、み～んな売りよった。すっからかんや。はははは。おい、ぐいっと飲めや」

野田 「はは、はい。ま、でも貴国は経済も絶対調だった筈で」

李 「アホぬかせ。韓国の経済？どこが絶対調やねん。そんな夢見てんの、日本人だけやで、正味の話。あんたら、テレビと新聞に騙されとんねん」

野田 「・・・」

李 「わが国は97年のアジア通貨危機で破綻して、08年のリーマンで、も一度破綻したんやで。もう無茶苦茶や。銀行も中小企業もバタバタぶっ倒れてるわ。ギリシャ以下やと国際社会が云とてるで」

野田 「いや、でも優れた工業力と低コストで輸出競争で優位に立ち...」

李 「キミ、それ、日本のマスコミに騙されてますんや。韓国企業云うたらな、キミとこからパーツ買ってきて組み立ててるだけや。資金も一てな、懐は寒い。ダンピング輸出しよるから、売れば損が出る。寒くて損が出れば」

野田 「サムスン!？」

李 「そうや。わかってきたやないか。そう云うこっちゃん。せやから首が回らん。案の定、経済破綻や。借金だらけや。ま、飲めや」

野田 「は、はい。その借金ですが、他国から取立ては厳しいですか？」

李 「はいな。厳しい。そら厳しいで。あいつら病人の布団を剥いても、筆り取りよる。それに貸さへん。オマエとこ金ないから貸さん、云いよる。どあほっ！金がないから借りるんじゃい！なめくさんな、おらっ！」

野田 「・・・」

李 「それでも何とか回しとったんや。こっちゃんから借りて、あっち借金返してな。あっちの利子を払うのに、こっちゃんから借りるわけや。氣いついたらサラ金地獄や。多重債務者ちう奴や。な、おい飲めや」

野田 「は、はい。ぐびぐびぐび」

李 「おお、いい飲みっぷりやないか。左手まで添えて、ケツタイな飲み方やけど。何やそれ、朝鮮式かいな。ま、ええか」

野田 「もう一杯ください」

李 「おお、調子でできたのう。・・・ま、それでや。もう、ど

ないもこないもあらへん。もうオッチャン、首くらんといかん、そう云うてな。ワシ、酒飲んでふらふらしとったんよ。」

野田 「・・・」

李 「そしたら、キミとこの民主党から前原とか、いろんな人が連絡して来てな。何とかします、云うねん」

野田 「は、はい。ぐびぐび」

李 「思うにキミとこの民主党、みんな、ワシらの同胞やね。朝鮮の民やな、どう見ても。ワシら心強いけどな。ま、よう、あんだけプライドの高い日本人が黙って見とるわな。云うたら悪いけど、今の日本人でアホちゃうかと思えますねん」

野田 「も、もう一杯」

李 「ピッチ、早いもう。ま、ええわ。で、何や、よう聞いたら、スワッピング云ういよるやないか。スワッピング云うたら、

夫婦交換ちう・・・」

野田 「通貨スワップ協定です！」

李 「交換するんやろ。同じや。でな、借金返すのにドルが必要や。でも韓国にはドルがない。そんなら、必要なドルや円を日本が差し上げますと云ってくれるやないか。しかもこっちゃんが交換用に差し出すんは、ウオンでええんや。夢みたいな話や」

野田 「いや、日韓は共存共栄なんです。さらには将来の関係深化を考慮してすね...」

李 「あんな、ウオンでワシらの自国通貨や。ウオンなんぞ、なんぼでも刷れんねん。刷れ云うたら、刷りませ。せやけど、紙切れや。世界中、どこに持っていても使えまへんねん。オモチヤの子供銀行券みたいなもんや。」

野田 「もう一杯」

李 「なんぼでも飲めや。こっちゃんは紙切れにウオンで書いたら、キミとこが円やドルやホンモノのお金に替えてくれるんやろ。スワッピングや、いやスワップか。ほんま、夢みたいな話や。な、飲め、もっと飲め」

野田 「ぐびぐびぐび。い、云っときますけどな。スワップは一時的な通貨交換ですよ。自国通貨を担保として差し出しても、借りた通貨を返さなければなりません。上限だって馬鹿馬鹿しく巨額ではあるけれど、5兆数千億円で決めてます」

李 「何をぬかしとんねん。返済されない恐れがあるから担保を取っとるわけやろ。ワシらが返さんでも、ええやないか。キミとこには、ウオンで書いた紙切れが山積みになるわ。うわはははは。それでええ、それでええ」

野田 「だ、大統領！あ、あんた、借りたドルや円を返す気がないんですか？」

李 「よう聞いた。ない！」

野田 「ここ、困ります」

李 「返す気はない。仮にあったとしても、わが国には銭コがない。借りるしかないのに、よその国はだ～れも貸さん。こんな貧乏人つかまえて、何さらせちうねん。ま、飲めや。」

野田 「ぐびぐびぐび。かかか、貸した金は未来永劫返ってこないのですか!？」

李 「教える。貸した金を返して欲しければ、ひとつだけ方法がある。前に貸した金額を上回る金をまた貸すのや。5兆円貸して焦げ付いたら、10兆円貸すのや。10兆円貸して焦げ付いたら、20兆円貸すのや。20兆円が焦げ付いたら」

野田 「ううう。き、気持ちが悪くなってきました」

李 「そりゃそやろ、キミが飲んどるのはトンスルや」

野田 「うげっ、げげげ。な、何ですか、一体!この話、オチはそれですか？」

李 「トンスルはオチやない。ウンチャ」

日韓首脳会談

